

第 93 回 東葛しぜん観察会

夏の虫とにらめっこ、虫のごちそうも探検

藤田 隆（松戸市）

日 時：2013 年 7 月 27 日（土）9 時 30 分～12 時 天気：晴

場 所：21 世紀の森と広場（松戸市）

参加者：一般 41 名（内 子ども 23 名）、指導員 20 名

担当指導員：川瀬美幸 長谷川依子 藤田 隆

伊藤、岩根、小川、片岡、川瀬、北山、草野、小島、高橋、田中、西池、長谷川、
林、日野原、藤田、三嶋、三角、宮川、山口、＜協議会＞内島

集合場所の 21 世紀の森と広場パークセンターには元気な子どもたちの姿があふれていました。5つのグループが野草園でかち合わないだろうか、幼児たちは歩くのを嫌がらないだろうか、と心配だけが先に立ちました。野草園での虫探しが思うようにいかなかったときのことを考えて、「クモ、トンボ、バッタ」のクイズ、ファールブルを6台用意し、クワガタ、カブトムシ、オオスズメバチなどの標本も観察できるポイントも設けました。クイズとファールブルのポイントでは給水タイムで水分を補給し、休憩をとるようにした結果、熱中症の心配ありませんでした。

クイズについては、幼児・小学生ばかりか、親の皆さんにも「へえー」という驚きの声が口をついて出て、さらに虫の見方に興味を持っていただくことができたように感じました。捕虫網は各グループ1本用意し、臨みました。子どもたちの素早い行動でオオシオカラトンボ、アカボシゴマダラ、ショウリョウバッタなどが次々にプラカップに収まっていき、楽しい観察会になったのではないのでしょうか。

東葛しぜん観察会として初めて松戸市との共催事業、参加者のうち幼児が17名というのも珍しく、画期的な観察会となりました。松戸市と当会が参加者受付という異例の試みは共催事業の第一歩として位置づけられるものとなり、東葛地区にある船橋市、柏市、野田市、流山市との協力関係を築く上においても、よい足跡を残せたのではないかと思います。

参加者にお話ししたのは、身の回りの自然への接し方、どうとらえるのかということですが、幼児がつぶしたアブラムシを「きたない」と手を払う親の姿に接するとき、指導員はどう働きかけたらよいのか、私たちの自然に対する思いを問い返す瞬間でありました。親から無言のうちに伝わるメッセージは子どもの自然に対する思いをゆがめてはいないのか考えさせられる場面でした。

私のグループでは、カバキコマチグモを観察しましたが、毒を持つ虫の存在を知らせたいという思いからでした。自然界には人間にとって有毒のものがふんだんにあるという点も伝えたかったことです。今回の観察会には担当の3人が3月から何度も下見を重ね、頭を寄せ合い作り上げてきました。指導員の皆様にもご指導をいただき事故もなく無事終了することができました。ありがとうございました。



トンボのクイズ